

米国ワシントン州 リンゴ委員会が2024年の作柄と販売計画を協議

[Good Fruit Grower 2024年10月17日](#)

ワシントン州リンゴ委員会は10月15日、エレンズバーグ市でマイケル・シャドラー新会長を迎えての初会合を開催し、現在進行中の収穫、2024-25年度のプロモーション予算、及びそうした事業の成功の計測方法について協議した。

この会合はまた、退任するトッド・フライホバー前会長の最後の会議でもあり、ワシントン州農業局のデレク・サンディソン局長が前会長の業界への貢献に謝意を表明するため立ち寄った。サンディソン局長は、フライホバー前会長のリーダーシップの下でのリンゴ委員会の仕事を称賛し、ワシントン州の輸出パートナーと会うための海外出張で、「環太平洋地域の至る所で、人々がワシントン州産のリンゴブランドを認識している」ことがわかったと述べた。

委員会のメンバーは、様々な農産企業で現在進行中の収穫に関する最新情報を共有した。昨年記録的な収穫量を達成した後で今年大幅に減少したハニークリップを除いて、ほとんどの委員が上位の品種は予想に近いかそれ以上に収穫されていると報告した。

CPCインターナショナルアップル社のジョン・アレグリア社長は、ワシントン州果樹協会が8月に発表した1億2,400万箱の推定収穫量に言及し、「今年の収穫量は1億2,500万箱よりも多い」と述べ、委員会の他のメンバーも、収穫量は1億2,500万箱から1億3千万箱の間になると推定してこれに同意した。業界は昨年、1億4千万箱を収穫し低価格に苦しんだ。

同委員会のリンゼイ・フーバー国際販売管理役は、2024年産作物の販売計画と、地域農業振興プログラム(RAPP)からの新しい連邦助成金を組み込むために委員会が予算をどのように調整したかについての最新情報を説明した。委員会はRAPPから700万ドルを受け取り、これからの収穫年度に260万ドルを支出する予定である。ただし、その資金はワシントン州の上位2つのリンゴ市場であるメキシコとカナダでのプロモーション活動には使用できない。この規定により、北米市場での活動をカバーするために、委員会の別の連邦助成金である市場アクセスプログラム(MAP)からの資金の再配分が必要となった。

どちらのプログラムも、生産者の負担金が必要である。2024年度に同委員会は、MAPからの520万ドル、RAPPからの260万ドル及び生産者自己資金の230万ドルを含む1,040万ドルを支出する予定である。予算配分の上位市場は、メキシコ、カナダ、ベトナム、中米地域及び台湾である。

リンゴの健康上の利点を打ち出すためのターゲットを絞った国内プロモーションを検討する提案は、今回の委員会では議論されなかった。シャドラー氏は、その議題は12月または2025年初頭の委員会で議論されるだろうと述べた。

執筆者: ケイト・プレングマン

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)